

中札内村子どもの読書活動推進計画
「第四次計画」(案)

心豊かで健やかな成長を願って

令和8年度～12年度

第1章 中札内村子どもの読書活動推進計画策定の考え方

| | |
|-------------|-------|
| 第1節 背景 | |
| 第2節 理念 | |
| 第3節 対象と計画期間 | |

第2章 子どもの読書活動を推進する体制

| | |
|------------------------|---------|
| 第1節 家庭 |2 |
| (1) 生まれる前から小学校入学前 | |
| (2) 小学生期 | |
| (3) 中学生期 | |
| 第2節 保育園・子育て支援センター |7 |
| 保育園の状況・子育て支援センターの状況と課題 | |
| 今後読書活動の推進に向けて取り組むこと | |
| 第3節 小学校 |9 |
| 中札内小学校の状況と課題 | |
| 今後読書活動の推進に向けて取り組むこと | |
| 上札内小学校の状況と課題 | |
| 今後読書活動の推進に向けて取り組むこと | |
| 第4節 中学校 |11 |
| 中札内中学校の状況と課題 | |
| 今後読書活動の推進に向けて取り組むこと | |
| 第5節 図書館 |12 |
| 図書館の状況と課題 | |
| 今後読書活動の推進に向けて取り組むこと | |
| 第6節 地域 |14 |
| ボランティアの状況と課題 | |
| 今後読書活動の推進に向けて取り組むこと | |
| 放課後児童クラブの状況と課題 | |
| 今後読書活動の推進に向けて取り組むこと | |

第3章 計画の普及に向けて

| | |
|-------------------|---------|
| 第1節 計画の効果的な推進に向けて |15 |
| 第2節 推進するために |15 |

中札内村子どもの読書活動推進計画「第四次計画」策定委員名簿17

第1章 中札内村子どもの読書活動推進計画策定の考え方

第1節 背景

近年、情報化社会の急速な進展に伴いインターネットやメディアを通じて、子どもたちは求める情報を簡単に得られるようになりました。生活では遊びが多様化し、本に親しむ時間の減少が懸念されています。

令和7年度全国学力・学習状況査では、村内の児童・生徒における「読書が好き」と回答した割合が小学生で55.2%、中学生で56.3%となり、半数以上の児童・生徒が読書に対して前向きな意識を持っていることが明らかになりました。

子どもは、他者とかかわり、自分自身を見つめながら育ちます。社会では、生きる力を備え多くの困難に立ち向かう心が必要です。本は子どもの想像力、好奇心や探究心などを育み、豊かな人間性をゆるぎないものに成長させていくことができます。

子どもの健やかな成長のため、国や北海道は子どもの読書活動の推進に関する法律や計画の整備を進めており、中札内村においても取り組んでいる事業や今後の目標をまとめ策定された「中札内村子どもの読書活動推進計画」（令和3年度～7年度）の理念を継承しながら「読書の村づくり」を目指します。

第2節 理念

子どもたちが楽しい読書習慣を身につけることができるよう、あらゆる読書活動¹のより良い環境整備を図ります。

第3節 対象と計画期間

この計画では、「子ども」とは乳幼児期から中学3年生までを対象とします。令和8年度から令和12年度までを計画期間とします。

¹読書活動 本を読むこと、読み聞かせをしてもらうこと、布でできた本等に触れること、録音図書のように音声で本を楽しむことなど本に親しむ様々な活動をいいます。

第2章 子どもの読書活動を推進する体制

第1節 家庭

安らぎの場である家庭で、本を通じた家族とのふれあいを楽しめることや、いつでも安心して好きなように本の世界を味わうことができるようになるのが家庭の重要な役割です。

(1) «生まれる前から小学校入学前»

「いつから読み聞かせを始めるべき?」、「まだ言葉もわからない赤ちゃんへの読み聞かせは意味があるの?」と思う人もいるかもしれません。いつから読み聞かせを始めるべきという指標はありませんが、家族の優しい声を聞くことができる、赤ちゃんがおなかの中にいる時から読み聞かせを始めても早すぎるということはありません。

大人とふれあいながら絵本を読みきかせてもらう経験は、感情や言語の発達に大きく影響します。大人からの愛情を感じながら読んでもらうことによって、子どもは絵本の世界に自然に溶け込んでいきます。また、読み聞かせをする親の気持ちは子どもの心に必ず伝わります。

●本を読む効果

- ・「これ読んで」と家族とのコミュニケーションが増えます。
- ・絵や文字に興味を持つようになったり、言葉の表現を知るようになります。
- ・想像力を育みます。
- ・絵本で見た自然の動植物などをはじめ、本以外にも興味が広がっていきます。
- ・言葉の音感やリズムをまね、言語の発達が促されます。
- ・感情や表情が豊かになります。
- ・じっと座っていられるようになり、人の話をじっと聞くようになるなど、集中力が高まります。
- ・読み聞かせする人と読んでもらう人同士で同じ世界を共有する楽しさや、心を通わせられる幸福感を味わえます。

●家庭でできること

- ・絵本を子どもの手の届くところに置きます。
- ・読み聞かせに慣れていない方は、文章をすべて読まなくてもいいので、子どもを膝に乗せて絵本のページをめくってみてください。目で追うものを「これはなんだろうね」と言葉のキヤッチボールをするのも素敵な本の世界の味わい方です。
- ・それぞれのご家庭のタイミングで、例えば、寝る前のひとときなどに読み聞かせをしてみてはどうでしょう。読書の習慣づくりになります。

●村の取組

・ブックスタート

乳児健康診査対象児(7~8か月)に、本を通して、親子のふれあいのひとときを持てるように司書が一人ひとりに絵本を読み聞かせをして、赤ちゃんに2冊プレゼントしています。



・ブックフレンド

ブックスタートのフォローアップ事業として行ってっています。3歳児健康診査対象児に、本を1冊プレゼント3歳児は自我が芽生えてくる時期であることから、気に入った本自分で選んでもらっています。

・図書館

0歳から利用者カードを作ることができます。じゅうたん敷きの「おはなしるーむ」という開放の部屋があり、乳幼児向けの本をたくさん揃えています。ベビーベッドやベビーカーを配置し、乳幼児がゆっくり過ごせるよう環境づくりをしています。また、図書館ボランティアの協力を得ながら、毎月第2・4土曜日に「おはなしるーむ」で子どもたちに本の読み聞かせを行っています。

●相談するところ

子どもと本とのふれあいや読み聞かせの方法など、どんなことでも相談できます。

- ・福祉課保健グループ、子育て包括支援センター
- ・図書館、教育委員会
- ・保育園、子育て支援センター
- ・地域のボランティア(13ページ参照「図書館ボランティア」「まざあぐうす」)

(2) «小学生期»

文字や言葉を理解できるようになると、世界がぐんと広がります。読書で想像力が養われ情緒豊かになり、身の周りの人を思いやる心やものを大切にする心が深まります。自分で読みたい本を選択し、興味のある分野を掘り下げて調べ、知識を深めていく喜びを感じられるようになります。

●本を読む効果

- ・使える言葉が増えることで、自己表現が豊かなものとなります。
- ・多様な物事に触れて他者の考え方や生き方を学ぶことで、心のよりどころができます。
- ・知識を深め、学ぶ楽しさを知ることができます。

●家庭でできること

- ・本が身近なものであるよう、本のスペースを生活空間に設けます。
- ・家族が本を楽しんでいると、自然と子どもも本に親しみやすくなります。
- ・低学年では読み聞かせなどにより、本に親しんだり読書を楽しんだりする時間を作ることを心がけます。
- ・高学年になると読書力が高まり幅広いジャンルの本に目を向けるようになります。各教科や総合的な学習の時間、特別活動における調べ学習など目的にあった本を選べる環境整備をしていきましょう。
- ・毎月第2土曜日のノーテレビデー・ノーゲームデー²の時間を読書に充てるなど、家読³を促しましょう。
- ・工作、料理や折り紙など、読んだの本の内容を家庭で実践したり、家族で図書館や書店に出向く楽しさを伝えたりしましょう。
- ・少年団活動や習い事などの合間に読書を楽しむことを提案しましょう。

●村の取組

・図書館

小学生向けの本を毎月相当数購入しています。後掲(12ページ参照)のように多く催しを行っています。家族で楽しめる図書館を目指しています。



²ノーテレビデー・ノーゲームデー 大人と子どもの、テレビとゲームの電子メディアの接触時間を見直す取組。

テレビを見ず、ゲームをしないで「家族の団らん」を大切に「体験活動」や「読書活動」に親しみ学校、家庭、地域における望ましいメディアとネット利用に向けたルールづくりの促進をはかるもの。中札内村では平成27年7月から、第2土曜日の 18:00~21:00 に設定している。

³家読(うちどく) 家庭での読書を通して、家族のコミュニケーションを図る取り組みのこと。
なお、「朝読(あさどく)」とは、学校における始業前の一斉読書のこと。

(3) «中学生期»

- ・中学生になると生徒会・部活動への参加により学校での生活時間が長くなるとともに、家庭学習の時間が増加するなど生活のリズムが大きく変化することにより、家庭で読書をする時間が減少する傾向にあります。
- ・心身が著しく成長する中学生期における読書は、自己を見つめ、自分のあり方を考えていくうえでの力になります。

●本を読む効果

- ・言葉や知識が増えると、自己表現が豊かなものとなります。
- ・多様な物事に触れて他者の考え方や生き方を学ぶことで、心のよりどころができます。
- ・知識を深め、学ぶ楽しさを知るとともに他者とのコミュニケーションツールとして活用できます。

●家庭でできること

- ・本が身近なものであるよう、本のスペースを生活空間に設けます。
- ・毎月第2土曜日のノーテレビデー・ノーゲームデーの時間を読書に充てるなど、家読を促しましょう。
- ・生徒会活動及び部活動や家庭学習の合間に読書を楽しむことを提案しましょう。

●村の取組

・図書館

中学生向けの本を毎月相当数購入しています。後掲(11ページ参照)のように多くの催しを行っており、家族で楽しめる図書館を目指しています。

また、ヤングアダルトコーナー⁴を設置しています。

⁴ヤングアダルトコーナー 中高生を中心とする10代に向けたコーナーのこと。

第2節 保育園・子育て支援センター

戸外遊び、お絵かき、粘土遊びなど保育の時間で大切なことはたくさんあります。その中でも絵本は子どもには豊かな感性や心を育むために欠かせないものの一つです。
子どもたちや保護者が絵本に親しめるようなきっかけづくりを目指します。

●保育園の状況

- ・保育園では、子どもたちみんなが遊ぶ遊戯室や各保育室に絵本を置いています。おもちゃを収納する場所と同じように本も収めており、子どもがいつでも本に触れられるよう環境づくりに努めています。
- ・保育園全体としては、登園後の自由時間や延長保育の時間に保育士が絵本や紙芝居を読み聞かせしています。また、各クラスでは午睡をする前に読み聞かせを行っています。
- ・「保育園だより」や「クラスだより」など保護者へのお知らせで、お勧めの絵本を周知しています。
- ・3歳児以上のクラスでは毎月1回程度、図書館へ行って子どもたちが好きな絵本を借りてきて、本に親しむ活動を行っています。
- ・家庭でも親子で楽しめるように絵本の貸し出しを行っています。



●子育て支援センターの状況

- ・約400冊の絵本があり、入れ替えをしながら色々な絵本を楽しむことができるようになります。絵本の購入に際しては、子どもの年齢に合わせ選書するほか、利用者(親子)の声も参考にして決めています。
- ・1回1家庭5冊まで、本の貸し出しを行っています。所有する絵本のなかには音の出る絵本も揃えており、利用者からとても人気があります。また、園児や保育園にも貸し出しをして、読み聞かせに利用されています。また、保護者向けに子育てや生活・手芸等に関する本も増やしているところです。



- ・開放事業や一時保育利用時に、子どもが気に入った絵本の貸し出しを利用者(保護者)に勧めています。
- ・子育て支援センター開放事業「げんきの日」「ぴよぴよの日」などの事業の終わりに職員が絵本の読み聞かせを行っています。
- ・「支援通信」や「支援のお部屋の掲示」で、新しく購入した絵本や人気な絵本、季節の絵本などを紹介して、お勧めしています。

●課題

- ・本に興味のある子とそうでない子が偏っています。
- ・子どもが本を丁寧に扱えず、傷みが早いです。
- ・「どんな絵本を選んでよいかわからない」と感じている保護者がいます。

●今後読書活動の推進に向けて取り組むこと

- ・古くなった本を整理したり、季節ごとに入れ替えたりして、子どもが本に興味を持ち、手に取りやすい環境づくりを取り進めます。
- ・子どもたちに本を大切に取り扱うことを繰り返し丁寧に伝えます。
- ・職員は、子どもの年齢に合わせた絵本の選定や読み聞かせのコツ、ポイントなどを学ぶことに努めます。
- ・絵本の読み聞かせを日頃の保育の中に明確に位置付けて、クラスごとに積極的に取り組んでいきます。また、季節の行事や社会生活のマナーなどを絵本を通して興味・関心を持てるよう取り入れていきます。
- ・保護者との懇談会や「保育園だより」や「クラスだより」で、絵本の紹介や子どもに対する読み聞かせの大切さを伝えます。
- ・絵本だけでなく、育児書や大人が読んでも楽しい絵本など、親子で本に親しめる環境づくりを取り進めます。
- ・支援センター内に「新しく購入した絵本」や「子どもに人気の絵本」「お勧めする本」の周知を行うコーナーを設置するなどして、親子で絵本に関心が持てるようにします。また、「絵本紹介」や「絵本の選び方」などの絵本に関する情報を伝え、絵本に親しみやすいよう取り進めます。



第3節 小学校

読書の楽しさを知り、想像力を働かせて思いやりの心を育む図書館教育を目指します。児童、教職員や地域の大人の力で学校図書館が子どもたちの心の潤いの場となるような環境づくりを目指します。

《中札内小学校の状況》

- ・月1回程度、朝学習と中休みの時間に読み聞かせを図書館ボランティアが行っています。
- ・学校図書館の使用にあたっては、国語や学級活動の時間を使用し、正しい使い方を指導しています。
- ・貸出状況や管理は教職員や図書委員が行っています。
- ・図書委員がお薦めの本を掲示物で紹介したり、本を読む機会が増えるような企画を行っています。
- ・学校支援ボランティア『ひなたぼっこ』により、季節に合わせた飾り付けや本・本棚の整理も行っております。
- ・貸し出した本は休み時間に教室で読んだり、家に持ち帰って読んだりしています。
- ・図書館の本を児童に貸し出す巡回図書⁵のコーナーを各教室に配置し、教職員が月に1度本の入れ替えを行っています。
- ・平成30年に学校図書館システムを導入したことにより、貸出返却や書架の管理がスムーズに行えるようになりました。



●課題

- ・本の貸し出しや学校図書館の利用方法以外にも、読書に対する積極的な関わりを模索する必要があります。
- ・本の修復、配架などの管理方法を、児童に知つてもらえるよう工夫する必要があります。

⁵巡回図書 図書館の本を学校のクラスごとに1か月貸出すシステム。司書教諭が各学級の要望を図書館にあらかじめ伝え、司書が専用ボックスにいれた本を教職員が入れ替えをしている。

●今後読書活動の推進に向けて取り組むこと

- ・PTA、ボランティア、図書館など地域の大人の力と知恵を借りながら、教職員や図書委員をはじめとした児童と学校図書館の整備を行います。
- ・休み時間に好きな本を選び自分のペースで読んだり、興味があることをじっくり調べられる居心地の良い空間を作ります。
- ・本を児童にアピールできるよう紹介方法を工夫していきます。
- ・各学年の実態に応じて、朝読書などの学校生活の中に積極的に読書を取り入れます。
- ・大人が子どもにその良さを伝えたい本を考えながら、本の選定を教職員、児童で行っています。
- ・夏期、冬期などの休業中に、教職員で学校図書館の本の修復を行い、効果的な配置を考えるなどの作業を計画的に行っています。
- ・調べたいものの答えがすぐ見つけられるよう司書教諭及び図書委員によるレファレンスサービス⁶を行います。

«上札内小学校の状況»

- ・学校中央の開放スペースにじゅうたん敷きの学校図書館があります。各学年の教室の間にあることから、いつでも気軽に子どもたちが利用できます。
- ・本の選書は、児童と教職員で本の種類などを考慮して計画的に行っています。
- ・貸出や返却、書架の整理整頓は担当で管理しており、児童会では文化保育部が活動時に掃除などを行っています。
- ・週1回、朝の会の後に実施している「上小タイム」や授業内の取り組みとして、読書タイムを不定期に設けています。
- ・月に1回、地域の読み聞かせボランティア「まさあぐうす」が昼休みに読み聞かせと随時本の整備を行っています。
- ・月に1度、図書館司書が選書した本を個人に貸し出しをする移動図書⁷を行っています。
- ・図書館司書が選書した本を「学級文庫」として常時各学級に置き、月に1度教職員で入れ替えを実施しながら、閲覧や貸出をしています。



⁶レファレンスサービス 図書館などで、調べもの援助をする業務のこと。調査のための参考になる資料を整備・作成することも含む。

⁷移動図書 月に1回司書が選書した図書館の本を学校などで個人に貸し出しするもの。

●課題

- ・本の修復、配架、除籍、日焼け対策など管理方法に工夫の余地があります。
- ・図鑑や大型本に対応できる本棚への改善が必要です。

●今後読書活動の推進に向けて取り組むこと

- ・本が苦手な児童にも興味を持ってもらえるような展示を工夫します。
- ・本の管理方法を教職員、図書館や地域のボランティアなどの協力を得て検討し、児童にとってより良い読書環境の整備を図ります。
- ・本を長く活用できるよう新規購入本からUV効果のあるブックカバーをかけています。

第4節 中学校

知識欲が湧き、世の中の溢れる情報を判断し、取捨選択できる力が育つ心身ともに成長著しい期間です。生徒の求める情報に出来るだけ応え、居心地のよい時間を過ごすことのできる安らぎのある学校図書館を目指します。

●中札内中学校の状況

- ・平成30年に図書館システムを導入したことにより、貸出返却や書架の管理がスムーズに行えるようになりました。
- ・本の選書や購入は教職員と図書委員で行い、定期的に本の点検や学校図書館の整備を行っています。
- ・図書委員が定期的に図書便りを発行したり、オリエンテーションを行ったりして、本の紹介や、学校図書館の利用呼びかけなどしています。また、朝読書の推進活動も行っています。



●課題

- ・本の修復、配架、除籍など管理方法を工夫する必要があります。
- ・利用しやすい学校図書館に改善する必要があります。
- ・本だけでなく、雑誌などのあらゆる図書館資料充実の必要があります。

●今後読書活動の推進に向けて取り組むこと

- ・図書館と連携を図りながら、本の管理や除籍する本などを検討し、活用しやすい学校図書館運営を目指していきます。
- ・今後も図書委員で取り組みながら、教職員と連携して学校図書館の環境整備を検討していきます。
- ・昼休みや放課後に好きな本を読んだり、興味があるものをじっくり調べられる居心地のよい図書館を目指します。



第5節 図書館

子どもが読書の楽しみを知り、本に親しめるように様々な活動や図書館資料⁷の環境整備を行っています。子どもたちのニーズを把握し、それに応え、さらに子どもの世界を広げる読書を提案できるようサービスの充実を目指します。

●図書館の状況

- ・子どもから大人まですべての利用者のために、他市町村の図書館と連携しながら必要な図書館資料⁸などをはじめとする情報の提供を行っています。
- ・月ごとに季節に沿ったテーマなどを決めて、本の展示コーナー設けています。
- ・毎月第2、4土曜日に司書と図書館ボランティアがおはなし会⁹を行っています。
- ・子どもに図書館の仕事を体験してもらう図書館のお仕事チャレンジ講座¹⁰、工作教室などの各種イベントを開催しています。
- ・ブックスタート、ブックフレンド(3ページ参照)を行っています。
- ・図書館ボランティアの協力を得て、中札内きらきら保育園と中札内小学校、放課後児童クラブに読み聞かせを行っています。また、中札内小学校、上札内小学校、放課後児童クラブで巡回図書を、上札内小学校で移動図書を行っています(7~10ページ参照)。
- ・北海道立図書館と連携して、読書活動の支援をしています。
- ・絵本作家による絵本読み聞かせライブを図書館などで実施しています。



●課題

・各小中学校の学校図書館、児童館の本の整備に向けて連携を深めていくことが必要です。

●今後読書活動の推進に向けて取り組むこと

- ・子どもの発達に応じた本の紹介や読書相談を行います。
- ・子どものニーズを把握しながら、地域学習もできるように図書館資料を充実させます。
- ・本を探しやすいように配置を工夫し、本棚の環境を整備します。
- ・各小中学校の学校図書館、児童館の本の管理方法について状況を把握し、環境を整える支援をしていきます。
- ・障がいのある子どものニーズも把握し、必要に応じて図書館資料の充実を図ります。
- ・読み聞かせや読書を推進する方々に、手法、場所や機会を提供します。
- ・調べたいものの答えを見つけやすいようレファレンスサービスを充実します。
- ・各学校への貸出など、本の有効活用と複本の軽減に努めます。



⁸図書館資料 絵本、本、雑誌、紙芝居、DVD、CDなど図書館が利用者に提供できる様々な資料をいいます。

⁹おはなし会 絵本や紙芝居の読み聞かせを行う。子育て家庭に、読み聞かせの方法や絵本の紹介といった本に関するアドレスも行っている。

¹⁰図書館のお仕事チャレンジ講座 図書館の使い方に重点を置きながら、司書の仕事もチャレンジしてもらい、本の配架や窓口業務などを体験する講座です。

第6節 地域

子どもたちへの読み聞かせはボランティアの協力で行っています。地域のボランティアの主体性を重んじ、幅広い活動ができるよう支援します。

また、放課後児童クラブの時間でも子どもが本に興味を持てるように巡回図書や読み聞かせを継続します。



«ボランティアの状況»

・村には中札内市街で活動する「図書館ボランティア」と上札内地域で活動する「まさあぐうす」の2つの読み聞かせボランティア団体があります。

●課題

・今後の活動を充実させ、多くの子どもたちが本に興味を持つ取組や体制づくりが必要です。

●今後読書活動の推進に向けて取り組むこと

- ・ボランティアの活動を今後も支援し、将来に向けて継続した活動へ繋げていきます。
- ・ボランティアの研修機会を増やすため情報の提供に努めます。

«放課後児童クラブ(学童保育)の状況»

- ・放課後児童クラブで購入した本や寄贈された本を配置しています。図書館司書が月に1回、読み聞かせをしています。
- ・子どものニーズに応じた本の購入に努め、寄贈された本も活用しています。



●課題

- ・多くの子どもが幅広い本に興味持てるような環境づくりが必要です。
- ・小説などページや文字数が多い本を手に取って読む児童が少ないです。

●今後読書活動の推進に向けて取り組むこと

- ・本の管理方法や展示方法を工夫し、様々な本を手に取ってもらえることを目指します。
- ・放課後児童クラブでは、今後も子どものニーズや時代を超えて読まれている本等を計画的に購入し、読書する環境を整えていきます。
- ・子どものリクエストを聞き、図書館の巡回図書で様々な分野の本を配置するとともに図書館司書による読み聞かせを継続し、子どもたちの読書への興味、好奇心を広げていきます。

第3章 計画の普及に向けて

第1節 計画の効果的な推進に向けて

計画の策定にあたり、現状把握と課題整理を行った上で今後の読書活動を効果的に推進する取組をまとめました。

多くの子どもが読書に親しむことのできる環境づくりが必要であり、家庭、保育園、小中学校、図書館や地域が連携しアプローチしていくことを今後の推進に向けた取り組みとして盛り込んでいます。

時代によって変遷する子どものニーズを的確に把握し、すべての子どもたちが「よりよい読書活動」を楽しめる体制整備の実現を目指します。

第2節 推進するために

「中札内村子どもの読書活動推進協議会」において、計画の推進を図っていきます。

●啓発・広報事業の展開

- ・広報紙やパンフレットを活用して、読書に関する情報の提供や啓発活動を充実します。
- ・保護者に向けた読書活動の意義や楽しみを啓発します。
- ・子どもの読書活動に関するイベントや本の紹介を実施します。

●関係職員の資質向上・連携

- ・読書活動に繋がる研修会への参加体制を整備していきます。
- ・各関係機関との情報共有を進めていきます。
- ・司書教諭の確保を目指すとともに、学校司書の配置も視野に入れます。

●よりよい読書活動への環境整備

- ・読書ボランティアの養成・確保を進めます。
- ・図書館や学校図書館で、より子どもが本に親しめるように環境整備を行います。
- ・ニーズに配慮しながら図書館でそろえるべき本の選書と蔵書管理に努めます。
- ・図書館や学校図書館は情報センターとしての機能を果たすため、レファレンスサービスの充実に努めます。

中札内村子どもの読書活動推進計画「第四次計画」

策定委員名簿

| 役職名 | 策定委員名 | 職名 |
|------|--------|------------------|
| 委員長 | 小山 洋子 | 図書館司書 |
| 副委員長 | 佐々木 理恵 | 中札内きらきら保育園 主査 |
| 委員 | 加藤 飛鳥 | 中札内小学校教諭 |
| 委員 | 増岡 英寿 | 上札内小学校教諭 |
| 委員 | 梅木 美沙 | 中札内中学校教諭 |
| 委員 | 大島 知代 | 子育て支援センター 主査 |
| 委員 | 姉崎 吉美 | 放課後児童クラブ 指導員 |
| 委員 | 杉浦 慶美 | 図書館司書 |
| 委員 | 八木沼 友理 | 図書館司書 |
| 委員 | 毛利 晋輔 | 事務局 |
| 委員 | 富波 明里 | 事務局 |

※ 委員9名 事務局2名 計11名

策定年月 令和8年3月
中札内村教育委員会

